

2022（令和4）年度

第2回進路説明会資料



2022（令和4）年10月19日

練馬区立大泉北中学校 第3学年

【目次】

「なりたい自分」へ一歩近づけるための進路選択を	P. 2
1. 進路決定までの日程	P. 3
2. 上級学校への進学（再掲）	P. 5
3. 都立高校 近年の変更点概要	P.10
4. 来年度の変更点・インターネット出願	P.11
5. 都立高校 近年の入試状況	P.13
6. 進路カレンダー	P.15
7. 出願に必要な書類	P.19
8. 進路希望調査から希望進路決定まで	P.20
9. 都立受検についての留意事項	P.21
《添付資料》	
□東京都立高等学校入学願書記入例	P.22
□選抜方法一覧抜粋	P.23
□「本校の期待する生徒の姿」抜粋	P.24
□文化・スポーツ特別推薦一覧抜粋	P.25
□文化・スポーツ特別推薦選抜方法一覧抜粋	P.26
□自己PRカード（昨年度）	P.27
□調査書見本（昨年度）	P.28
□私立高校の学費負担の軽減制度	P.29

「なりたい自分」へ一歩近づけるための進路選択を

校長 井上 春好

いくつもある選択肢の中から、自分の進む道や進路先を決定することは、簡単なことではありません。

《進路を考える上で大切なこと》

- 1 自分を知ること（自分の性格、能力・適性、興味・関心、夢・希望）
- 2 相手を知ること（志望先の教育方針・内容・雰囲気、就職・進路先情報）
- 3 生き方考えること（将来の方向性、仕事、生活）

上記の3つを総合的に判断して、《進路選択の判断基準》で最も大切なことは、

「その進路選択をすることにより、将来希望する“なりたい自分”
へ一歩でも近づけるかどうか」です。

仕事への興味、将来の方向性、さらには人生全体を見通して、これからどうしていきたいのかを選択基準として考え始めるのが中学3年生です。

まだ、「将来のことを全く考えていない」人は、今できる範囲で、将来の“なりたい自分”を考えてください。将来のことを考え、希望の進路を決めることができる人は、より明確な目的意識をもって努力をすることができます。

これからの人生では、努力・選択・判断をする節目が何度も訪れます。必ずしもすべて自分の希望どおりにはいきませんが、努力や挑戦をせずして成功はありません。また、努力を積み重ねた経験は必ず先にいきっていきます。ぜひ、自分の目標や夢を達成できるように努力を続けることができる人になってください。

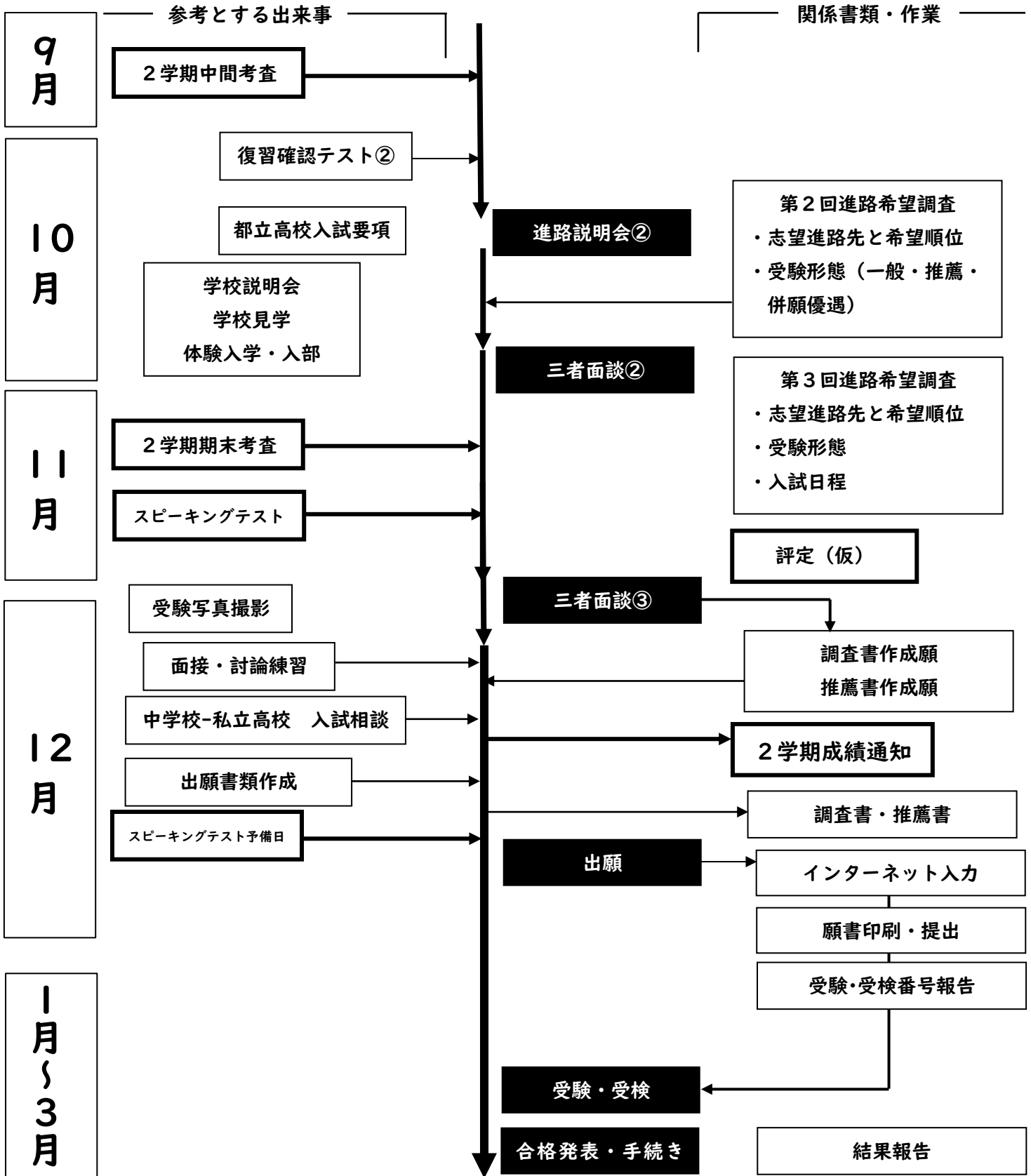
また、自分が進む道を決めるのは自分自身ですが、家族や周りの人からの助言を素直に聞き、相談することはとても大切なことです。自分では、気がつかなかった新たな見方や新たな自分、新たな可能性を見つけることもあります。

これから進路決定までの時期は、不安や心配なことがたくさんあると思います。保護者の方や家族、学校の先生、周りの人たちが、できる限り、みなさんを支えます。

令和5年3月、一人一人が、自分自身の夢や希望をもって、大泉北中学校を巣立っていけるように全員で頑張っていきましょう。



1. 進路決定までの日程



2022(令和4)年度入試 日程

月	日 程
9	◎2学期中間考査(15・16日)
10	◎復習確認テスト②(6日) ■第2回進路説明会(19日) ◇進路希望調査②(14日配布 24日締切) ☆三者面談②(28日~11月4日)
11	◎2学期期末考査(14・15・16日) ◇進路希望調査③(11日配布 22日締切) ・27日(日)スピーキングテスト(外部会場)
12	・受験写真撮影(1日) ☆三者面談③(2日~8日) ◇調査書作成願(2日~16日) ・中学-私立高校間での入試相談(15日) ※ここまでに私立高校は決定する ・18日スピーキングテスト予備日 (推薦・併願優遇等) △20日都立高校インターネット出願入力期間開始 ・面接練習開始 ・就職応募書類送付
1	▲私立推薦選拔出願(14日頃~)・入試・合格発表(21日頃~) ・都立推薦インターネット出願入力期限(10日) △都立推薦選拔出願(12日~18日)・入試(26日・27日) △都立産業技術高専推薦選拔出願(12日~18日)・入試(27日) ・都立一般インターネット出願入力期限(23日) ▲私立一般出願(25日頃~)
2	▲私立一般入試埼玉県他(1日~) △都立推薦選抜合格発表(2日) △都立産業技術高専推薦発表(2日) △都立一次・前期出願(2月1日~2月7日)・入試(21日) △都立産業技術高専一次出願(2月1日~2月7日)・入試(15日)・発表(20日) ▲私立一般入試(10日頃~) ◎学年末考査(24・27・~28日)
3	△都立一次・前期合格発表(1日) △都立二次・後期出願(6日)・入試(9日)・発表(15日) ・卒業式(17日) △定時制二次出願(22日)・入試(27日)・発表(28日)

<記号の説明>

◎中学校での試験

■説明会

◇進路希望調査

☆三者面談

△出願や発表

▲入試

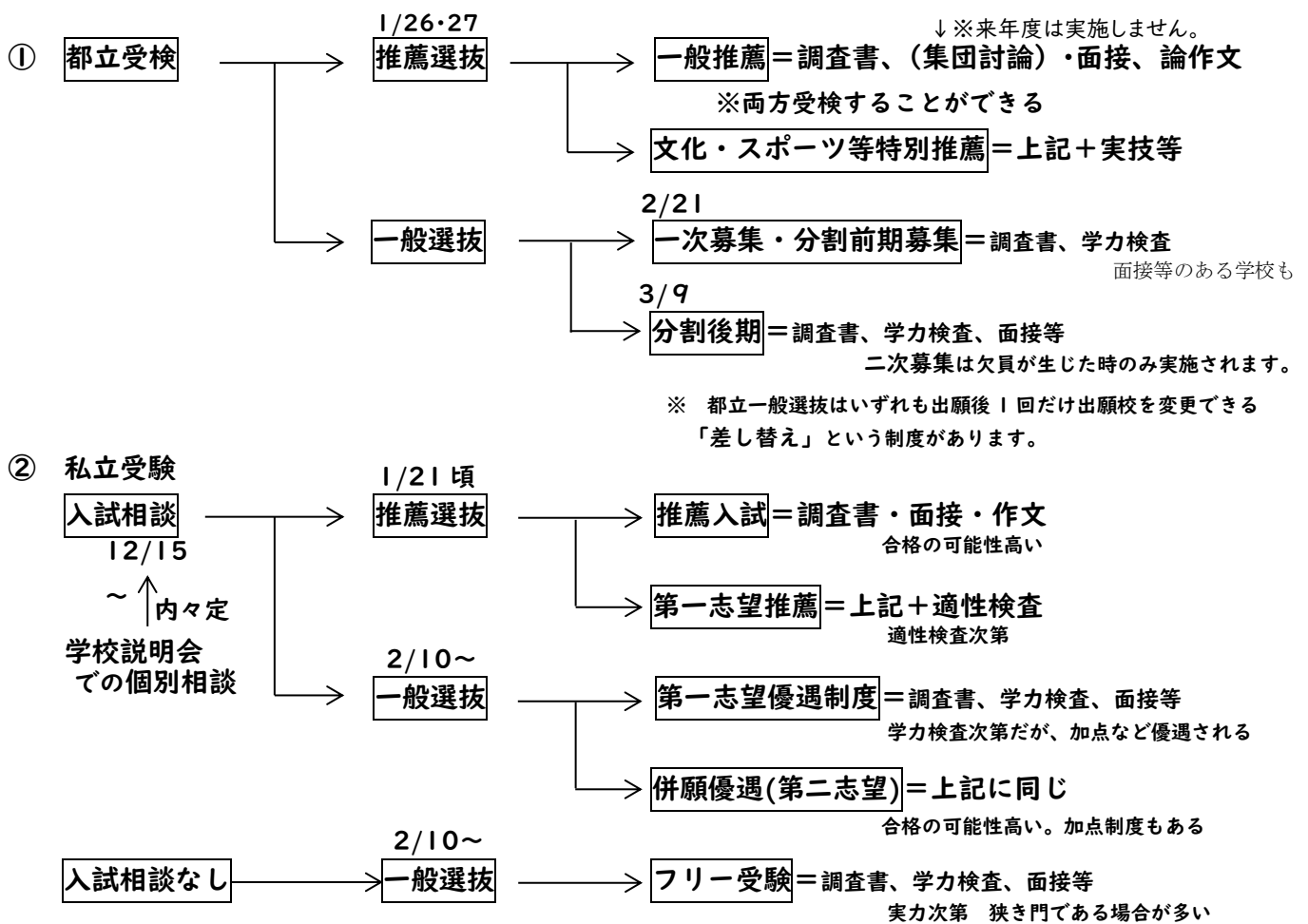
2. 上級学校への進学 — 高等学校への進学を中心に —

7月の進路説明会でも紹介したように、上級学校は多くの種類がありますが、ほとんどの人は「高等学校」を進路先として考えているでしょう。そこで、ここでは高等学校への進学に絞って説明します。

ごくおおざっぱに言って、高等学校は都立と私立に分けられます。また、進級のしくみで学年制や単位制、コース制に、さらに授業の履修のしかたで全日制と定時制、昼間定時制、通信制に分かれます。そのうえ、学校ごとに普通科、商業科、英語科などなど、さまざまな課程があります。この冊子の付録Ⅰや別冊の「入学を希望する皆さんへ」を参考にしてください。

高校が入学者を決めるために行う選抜の方法で推薦選抜(試験)と一般選抜(試験)に分けられます。都立は「受検」と書き、私立は「受験」と書きますが、読み方はどちらも「じゅけん」です。

A. 受検(験)の種類



B. 推薦選抜と併願優遇

推薦選抜とは、生活面、学習面がともに優秀であり、その学校を志望する動機や目的がはっきりしている生徒を中学校の校長先生が人物を保証して推薦する制度です。次のような特徴があります。

*基本的に学科試験がなく、面接や作文、調査書などで合否が決まります。ただし、私立高校の中には、「適性検査」

という名前で、基礎的な学力の有無をみるテストを実施する学校もあります。

*スポーツ、芸術など、専門性の高い分野の高校では、実技試験もあります。

*合格したら必ず進学することが条件です。

(1) 都立高校の推薦選抜

現在では、

- 一般推薦
- 文化・スポーツ等特別推薦
- 理数特別推薦（立川高校創造理数）

の3種類の推薦選抜があります。どちらかまたは両方を受検することができます（理数を除く）。調査書、個人面接、小論文や作文、特別推薦の場合はさらに実技試験などすべての検査結果を総合した成績で合否が決められますが、25年度より調査書点(内申点)を総合点の50%を上限とする制度変更が行われ、集団討論・個人面接・小論文などの比重が大きくなっており、内申点が高いからと安心することはできなくなっています。いずれにせよ、非常に高いレベルでの合格となります。なお、現在は推薦選抜で合格させる人数の枠（定員）を全体の20%～30%以内にする高校がほとんどです。また特別推薦は「英検準2級以上」、「都吹奏楽コンクール銅賞以上」、「都大会ベスト16以上」などの推薦の基準を事前に発表する高校もあります。（今年度は集団討論を実施せず、特別推薦の基準に大会の実績や、資格・検定試験等の成績に関わる内容を含めないことになりました。）

(応募資格の例)

- ① 当該高校への入学を第一志望としており、合格したら必ず進学する者。
- ② 学業面、人物面で優れており、当該高校の教育方針や「本校の期待する生徒の姿」をよく理解している者。
- ③ 在学する中学校の校長が推薦する者。（本校の推薦基準を満たしている生徒）

(2) 私立高校の推薦選抜（この形態がない私立高校もあります）

推薦選抜に出願できる「基準」があります。この基準以下だと、その高校の推薦選抜には出願できません。この基準には二種類あり、基準を満たしていればほぼ合格できるものと、基準はあくまで出願資格であり、合格は保証されないものがあります。

(高校側が示す基準の例) - あくまで例! -

- ① 学業面、人物面で優れており、当該高校の教育方針をよく理解している者。
- ② 当該高等学校への入学を強く希望しており、合格したら必ず進学する者。
- ③ 5科内申合計が16以上である者。
- ④ 3年次の欠席と遅刻と早退の合計日数が5日以内である者。
- ⑤ 学校説明会、体験入学、個別相談等に2回以上参加していること。
- ⑥ 在学する中学校の校長が人物面について責任を持って推薦する者。

※他に埼玉の私立校に見られる「自己推薦」はこの限りではありません。

(3) 併願優遇入試（私立高校一般選抜の一形態です。制度がない高校もあります）

私立高校入試にしかありません。「第一志望の高校が不合格の場合は、必ずこちらの高校に入学します」という前提のもとに受験するタイプの入試です。「第一志望の高校」とは、「都立高校」をさすことがほとんどですが、「私立高校でも可」という高校もあります。

一般入試(フリー受験)として受験するより、合格しやすくなっていますが、推薦選抜と同じように、出願ができる「基準」があります。基準に足りない場合は、p.8の一般選抜になります。

「手続き締め切り日」は、「都立高校合格発表の日、またはその翌日」が一般的です。

(高校側が示す基準の例) - あくまで例! -

- ① 学業面、人物面で優れており、当該高校の教育方針をよく理解している者。
- ② 第1志望の高等学校（多くが都立高校を想定、最近では私立併願を認める高校が増えた。）が不合格となった場合、必ず当該高校に進学する者。
- ③ 5科内申合計が21以上である者。
- ④ 3年次の欠席と遅刻と早退の合計日数が5日以内である者。
- ⑤ 学校説明会、体験入学、個別相談等に2回以上参加していること。
- ⑥ 中学校の校長が人物面について責任を持って推薦する者。

《本校の推薦基準》

これまで見てきたように、推薦入試とは、都立私立を含め、中学校が人物を保証して受検(験)する入試を指し、生活面、学習面がともに優秀であり、その学校を志望する動機や目的がはっきりしている生徒を中学校の校長先生が人物を保証して推薦する制度です。

推薦入試受験希望者の条件

- ◎ その学校への進学を真剣に希望し、合格したら必ず進学する意志を強く持っている。
- ◎ 各学校の学力・人物等の推薦条件をクリアしている。
- ◎ 推薦されるにふさわしい人物である。
 1. 大泉北中の教育目標である、「自ら学ぶ人間」「思いやりのある人間」「明るく健康な人間」を、日々の生活において実践しようとしている。
 2. 大泉北中の生徒として、決まりを守っている。
 - ・生活態度がしっかりとできている。
 - ・服装・頭髪等の決まりが守れている。
 - ・委員会、班、係の仕事にしっかり取り組んでいる。など
 3. 授業に真剣に取り組んでいる。
 - ・まじめな学習態度である。
 - ・提出物や宿題がしっかり出来ている。
 - ・チャイム着席が守られている。など
 4. 部活動やボランティア活動などを一生懸命にやっていて、一定以上の成績(実績)を残している場合、そういった活動などによる推薦ということもある。
 5. 社会一般の法律やルールを守っている。

以上の項目に照らし合わせ、3学年から全職員に提案があり、職員会議での了承を経て、最終的には校長先生が推薦での受検(験)を認めます。

C. 一般選抜

都立、私立ともに学科試験の成績と、調査書で合否が決まることが基本になる入試制度です。以下のような特徴とタイプがあります。

- * 学科試験と、調査書などの総合点で合否を決めますが、多くの私立高校が、一般選抜にも面接試験を導入しています。都立高校でも面接検査を実施するところがあります。
- * 学科試験の科目は、私立高校は3教科、都立高校は5教科が基本ですが、学校ごとに異なります。
- * 私立高校の場合、試験日が異なれば基本的には何校でも受験できますが、例外もあります。
- * 私立高校を一般選抜で受験する場合、合格後の「入学手続き締め切り日」が重要なポイントになります。簡単に言えば、入学金等の振り込みの締め切り日です。都立高校が第一志望の場合、都立の合格発表の後まで振り込みを待ってもらえるのが理想ですが、私立高校によっては、特別な手続きが必要な高校や、一切待ってくれない高校など、いろいろです。かなりの金額になるので、最初に確認しましょう。P.7に述べた併願優遇受験の場合は基本的には都立発表まで待ってくれます。

一般選抜には、以下の入試タイプがあります。

(1) 併願優遇入試（この形態がない私立高等学校もあります） p.6 参照

(2) 一般入試（フリー受験）

優遇制度がない、または基準に届かない私立高校を受験する場合、いわゆる「フリー受験」と呼ばれている入試タイプです。また、都立高校の一般選抜は、すべて一般入試です。

「手続き締め切り日」は、私立高校の場合、「都立高校合格発表の日、またはその翌日」というところが多いです。都立高校の場合は、発表当日と翌日正午までです。

(3) 第一志望（優遇）入試（この形態がない私立高校もあります）

私立高校入試にしかありません。推薦選抜と同じように、出願ができる「基準」があります。「推薦選抜（合格がほぼ確実）に出願する基準には足りないが、どうしても入学したい」という生徒を主に対象にしたものです。一般選抜ですから学科試験はありますが、他の一般入試の生徒よりも合格しやすくなっています。（加点など）ただし、合格を保障するものではありません。

「第一志望」として合格したのですから、「手続き締め切り日」は、合格即日か翌日です。

D. 合否のきまりかた 別冊「入学を希望する皆さんへ」(p. ~ 参照)

内申点

中学校から受検(験)する高校へ提出する「調査書」に書かれた評定点（通知表の5・4・3・2・1のこと）のことです。評定点を単純に合計した「素内申」と、入試当日に試験のない教科（音楽や家庭科など）の評定を2倍して合計するなど教科によって「重み付け」をした上で合計する「換算内申」の2種類があります。3年生の4月から12月末日までの成績を元に算出されるものです。

(1) 素内申

通知表の5・4・3・2・1を単純に合計した数値。都立や私立高校の推薦入試、私立の併願優遇の時などに使われます。内申といたら、普通「素内申」のことをいいます。

※「3科内申」→国語・数学・英語の3科の5段階評定の合計

「5科内申」→国語・数学・英語・社会・理科の5科の5段階評定の合計

「9科内申」→国語・数学・英語・社会・理科・音楽・美術・保健体育・技術家庭の9科の5段階評定の合計

《素内申点の使い方》

① 私立の推薦入試を受験することができるかどうか、併願優遇制度を利用できるかどうかの基準となる。

○ ある私立高校の例

・ 推薦入試受験資格

9教科内申が28以上。ただし、全教科に「1」がないこと。英検3級は+1。

・ 併願優遇利用資格

9教科内申が30以上。ただし、全教科に「1」がないこと。英検3級は+1。

② 都立推薦試験の得点となる。

たとえば、保谷高校の推薦試験は調査書点500点、作文点350点、個人面接150点の合計1000点満点での上位者が合格します。単純に調査書点の500点が評定合計だけで決まるとするならば、素内申点の最高点は45点（9教科で5）ですから、

$$500 \text{ 点} \times \text{あなたの素内申点} / 45 = \text{調査書点(小数点以下切り捨て)}$$

ということになります。

これに作文点、個人面接点が合計されて合否が決定されます。

(2) 換算内申

都立高校の一般受検の時に使われる数値 以下は一般的な例

※5科(国語・数学・英語・社会・理科)受検の場合は、5科はそのまま合計

残りの4科(音楽・美術・保健体育・技術家庭)は、合計後×2倍

〈具体例〉

国語	数学	英語	社会	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭
3	4	3	3	4	3	3	4	3

素内申 (3 + 4 + 3 + 3 + 4 + 3 + 3 + 4 + 3) = 30
満点は45点です

換算内申

5科 国語・数学・英語・社会・理科の合計

$$(3 + 4 + 3 + 3 + 4) = 17$$

4科 音楽・美術・体育・技術家庭の合計×2

$$(3 + 3 + 4 + 3) \times 2 = 13 \times 2 = 26$$

つまり、換算内申は $17 + 26 = \underline{43}$ となる

満点は65点です

《換算内申点の使い方》 都立の合格の決まり方

① 都立第一次募集・分割前期募集（いわゆる一般入試）の得点となる。

・ 都立一般入試は多くの学校が学力検査点と調査書点の合計1000点満点で実施されます。

・ 学力検査点と調査書点の比率は700：300が基本です（まれに専門科の学科で600：400となる高校もあります）。

・ 換算内申点（満点65点）は300点に換算します。

・ これに、当日のテストの得点（500点満点）を1.4倍（700点満点に換算するために）したものを合計して合否を決定します。

3. 都立高校 近年の変更点概要 ①②③は今回（2023年度）の変更点

- ① すべての都立高校（推薦・分割前期）がインターネット出願に変更（昨年20校で試行実施）→p.11～12 参照
- ② 男女別定員の緩和を20%に（昨年10%）→ p.12 参照
- ③ 新たに東京都中学校英語スピーキングテストの結果を入学者選抜に活用（20点）→p.12
- ④ 学力検査に基づく選抜（一般入試）における総合得点の算出方法の変更
 - ほとんどの学校が5教科受検（定時制と一部の学校は3教科受検）
 - 学力検査の得点と調査書の得点比率が多く为学校で7：3に統一（芸術科、体育科は6：4）
 - 調査書点は学力検査のない教科の評定点が2倍
- ⑤ 併設型中高一貫教育校の募集停止
 - 白鷗 ⇒ 令和5年度入試で高校の募集を停止
 - 富士、武蔵、両国、大泉 ⇒ 募集を停止
- ⑥ 全日制学力検査問題（国語、数学、英語）の作成
 - 3科目自校作成：日比谷、戸山、青山、西、八王子東、立川、国立、新宿、墨田川、国分寺
 - ※ 国際高校は英語のみ自校作成問題
- ⑦ 分割募集を行う近隣の高等学校
 - 全日制：竹台、大山、田柄、東村山、練馬工業（キャリア技術）、中野工業（キャリア技術）
 - 定時制：一橋、浅草、荻窪
- ⑧ 試験結果（得点等）の開示請求
 - 受検者又は保護者は受検した都立高校長に対して、推薦試験の得点、学力検査等得点表及び学力検査における答案の開示を請求することができる。
 - 《不合格者》
 - ・ 推薦に基づく選抜、第一次募集・分割前期募集
受付開始日：3月3日 得点表の交付は3月13日
受付終了日：8月31日
 - ・ 分割後期、全日制第二次募集
受付開始日：3月13日 得点表の交付は3月23日
 - 《合格者》
 - 受付開始日：2023（令和5）年5月1日
受付終了日：令和4年8月31日

⑨ 検査日

昨年、推薦に基づく選抜、第一次募集・分割前期募集において、1日又は2日で実施していた検査を、原則として1日ですることとしていたが、元に戻して1日又は2日選抜が復活。

⑩ 合格発表

全日制は出願サイト上で発表（8:30）、次いで各都立高校での掲示（9:30）。
定時制は出願サイト上で発表（8:30）、次いで各都立高校での掲示（16:00）。

⑪ 推薦に基づく選抜

一般推薦における検査では、集団討論は実施しない。また、文化・スポーツ等特別推薦の基準に、大会の実績や、資格・検定試験等の成績に関わる内容を含めず、「実績等を証明する書類等の写し」の提出も求めない。

⑫ インフルエンザ等学校感染症罹患者等に対する追検査

第一次募集の検査当日に、インフルエンザ等に罹患した者、中学校長が出席停止の措置を行った者、新型コロナウイルス感染症の感染が疑われる者で受検できなかった者又は検査日当日に37度以上の発熱が認められ、受検せず追検査の措置を希望する者は追検査受検を申請することができる。なお、追検査は分割後期募集・全日制第二次募集と同じ日程で実施する。追検査に申請した人は、申請を取り下げて分割後期募集や全日制二次募集に出願することはできるが、追検査か学力検査（後期・二次）のどちらか一方にしか出願できない。

⑬ 学科改編（昨年年度の入試から）

田 柄：外国文化コースを廃止
五日市：ことばと情報コースを廃止
※ どちらも普通科募集を拡大する

立 川：創造理数科の設置

※ 推薦に基づく選抜に、理数等特別推薦を設ける。一般推薦と同時受検はできない。

4. 都立高校 来年度の変更点概要

① すべての都立高校（推薦・第一次・分割前期）がインターネット出願に変更

・志願者は指定された「入力期間」に各高校の「出願サイト」に志願者情報を入力。中学校とやりとりしながら出願します。

・入力期間

推薦	12月20日（火）から1月18日（水）
第一次・分割前期	12月20日（火）から2月7日（火）
第二次・分割後期	インターネット出願は行いません。

・中学校は必要書類を準備して志願校に郵送。メ切りは入力期間と同じですが、、

・志願変更は、変更前後の高校の窓口と、インターネットの両方を使って出願変更します。

※ 具体的な入力例（昨年の例です）

1. 志願者は志願校の出願サイトにアクセスし、アカウント登録 マイページを取得する。
2. 顔写真データをマイページに登録。志願者情報を入力。
3. 志願者が顔写真登録、志願者情報を入力後、中学校は中学校用出願管理サイトを通じて写真、志願者情報を確認。管理サイトを通じて承認登録する。
4. 中学校の承認登録後、志願者は入学考査料金を決済して出願申し込みを確定。決済には出願サイトでクレジットカード決済するか、中学校でもらう紙の振込用紙で払い込む。用紙で支払った場合は領収証書の写真をアップロードする。
5. 志願者は出願サイトから入力済み願書をプリントアウトし、保護者が署名して中学校へ提出。中学校で最終確認後、出願サイトの書類提出画面から、作成した入学願書のPDFファイルをアップロードする。自己PRカードなどもPDFかJPEG（静止画の一形式）ファイルにしてアップロード。
6. 中学校が必要書類（調査書、成績一覧表）を各都立高校へ郵送して出願完了。
7. 指定日以降に出願サイトから受検票をダウンロードしプリントアウトする。受検日に持参する。

② 男女別定員の緩和を20%に（昨年10%） 2024年度は撤廃か。

■ 募集人員の男女各8割までは男女別に上位を合格させ、残り2割については性別に関係なく、上位を合格させるという方法。今回（2023年度受検）から男女別定員を設けている全ての都立高校で実施される。ちなみに男女別枠定員を設けているのは現在東京都のみ。

■ 昨年定員枠緩和10%で実施した結果

男女合同定員と同じ結果になる学校	81校／109校中（74%）
男女合同定員の場合、女子合格者が増加する学校	23校（21%）
男女合同定員の場合、男子合格者が増加する学校	5校（5%）

③ 新たに東京都中学校英語スピーキングテストの結果を入学者選抜に活用（20点）

- 調査書点:300点+当日点700点+スピーキングテスト点20点=1020点
- ちなみに英語の評定が「5」だったときの調査書点は23点

概略

スピーキングテスト

11月27日(日)実施 12月18日(予備日)

利用方法

スピーキングテストの結果を6段階(A~F)に評価し調査書に記入する。

A=20点、B=16点・・・F=0点を総合得点に加算する。

5. 都立高校(全日制) 近年の入試状況

入試年度	推薦入試 実質倍率	一般入試実質倍率	都立志向率
2020年度	2.59	1.34	64.9%
2021年度	2.81	1.32	63.2%
2022年度	2.55	1.36	62.7%

※都立志向率=(推薦入試合格者数 + 一般入試受検者数) ÷ 公立中3生在籍数(志望調査時)

<ポイント>

- 私立高校授業料実質無料化により、都立受験者が減少傾向にある
- 推薦の受検者増加はコロナにより早く合格を決めたいことや集団討論の中止等が要因と考えられる
- 人気校は依然激戦となっているので、注意が必要

入試年度	公立中3生在籍数	前年比	学級数	前年比	募集人員	前年比
2020年度	75333人	-1308	1035学級	-32	40470人	-1225
2021年度	72991人	-2342	1004学級	-31	39250人	-1220
2022年度	76402人	+3411	1033学級	+29	40390人	+1140

<ポイント>

- 今年度の中3生は約1300人増加 → 都立高校が50~60%を受け皿とする
→募集人員の微増が予測される。10月中旬発表予定。
- 学級増だからといって昨年より合格しやすいとは限らない
→中3生の人数が増えているのを忘れてはならない 2022年度は不合格者1000人増

★2022(令和4)年度 一般入試全入の学校 60校

八潮、大森、蒲田、千歳丘、深沢、光丘、田柄、高島、大山、足立新田、青井、足立東、葛飾野葛西南、山崎、野津田、武蔵村山、拝島、羽村、多摩、五日市、秋留台、久留米西、小平西、東村山西、板橋有徳、芝商業、第一商業、第四商業、葛飾商業、江東商業、第三商業、総合工科、杉並工業、北豊島工業、蔵前工業、荒川工業、足立工業、
【墨田工業】、【葛西工業】、町田工業、【田無工業】、府中工業、中野工業、練馬工業、橘、【赤羽北桜(家)】、瑞穂農芸(生活)、忍岡(生活)
農芸、農産、大田桜台、総合芸術(音)、赤羽北桜(福祉)、野津田(福祉)、六郷工科、葛飾総合、町田総合、東久留米総合、若葉総合

※【 】は第2志望以下未記入のため不合格が出た学校(人数的には全入)

6. 進路カレンダー(予定)

10月				11月				12月			
日	曜	予定	書類関係	日	曜	予定	書類関係	日	曜	予定	書類関係
1	土			1	火	三者面談		1	木	受検写真撮影	
2	日			2	水	三者面談		2	金	三者面談	面談で 推薦書作成願 調査書作成願 配布
3	月			3	木	文化の日		3	土		
4	火			4	金	三者面談		4	日		
5	水			5	土			5	月	三者面談	
6	木	復習確認テスト②		6	日			6	火	三者面談	
7	金			7	月			7	水	三者面談	
8	土			8	火			8	木	三者面談	
9	日			9	水			9	金		
10	月			10	木			10	土	学校公開	都立推薦入学願書配布
11	火			11	金		進路希望調査③配布	11	日		
12	水			12	土	学校公開		12	月		
13	木			13	日			13	火		都推:自己PRカードメ切
14	金		進路希望調査②配布	14	月	2学期期末考査		14	水		
15	土			15	火	2学期期末考査		15	木	入試相談始	
16	日			16	水	2学期期末考査	調査書記載事項申請書 配布	16	金		推薦書・調査書作成願メ切
17	月			17	木		都推:自己PRカード配布	17	土		
18	火			18	金			18	日	スピーキングテスト予備日	
19	水	第2回進路説明会	住所氏名確認願 配布	19	土			19	月		
20	木			20	日			20	火	都立推薦・一次・前期 インターネット出願開始 埼玉県私立出願開始	
21	金			21	月			21	水		
22	土			22	火		進路希望調査③メ切	22	木		
23	日			23	水			23	金	終業式	
24	月		進路希望調査②メ切り 住所氏名確認願 配布	24	木			24	土		
25	火		住所氏名確認願 メ切	25	金			25	日		
26	水			26	土			26	月	冬季休業日始	
27	木			27	日	英語スピーキングテスト		27	火		
28	金	三者面談		28	月		調査書記載事項申請書 メ切	28	水		
29	土			29	火			29	木		
30	日			30	水			30	金		
31	月	三者面談						31	土		

1月							
日	曜	予定	都立受検	東京私立	埼玉受験	提出書類	その他
1	日						
2	月						
3	火						
4	水						
5	木						
6	金						
7	土	冬季休業日終					
8	日						
9	月						
10	火	始業式	推薦入力期限				
11	水						
12	木		推薦願書提出開始				
13	金					都推薦願書×切	
14	土	学校公開					
15	日			推薦出願始			
16	月						
17	火						
18	水		都立推薦出願終				
19	木				推薦・併願受験開始		
20	金						
21	土						
22	日			推薦入試始	推薦・併願始		
23	月		一般入力期限				
24	火						
25	水			一般・併願出願始		都一般願書×切(一般のみ受検者)	
26	木		推薦検査				
27	金		推薦検査				
28	土						
29	日						
30	月						
31	火						

※私立・埼玉の日程は目安です。募集要項や各学校のホームページ等から必ずご確認ください。

※予定は変更することがございます。ご了承ください。

2月							
日	曜	予定	都立受検	東京私立	埼玉受験	提出書類	その他
1	水		一次・前期願書受付開始				
2	木		推薦合格発表				
3	金		推薦合格手続×切				
4	土	学校公開					
5	日						
6	月						
7	火		一次・前期出願終				
8	水						
9	木						
10	金			一般入試始			
11	土	建国記念の日					
12	日						
13	月		一次・前期願書取下				
14	火		一次・前期願書再提出				
15	水						
16	木						
17	金						
18	土						
19	日						
20	月						
21	火		一次・前期検査				
22	水						
23	木	天皇誕生日					
24	金						
25	土						
26	日						
27	月						
28	火						

※私立・埼玉の日程は目安です。募集要項や各学校のホームページ等から必ずご確認ください。

※予定は変更することがございます。ご了承ください。

3月							
日	曜	予定	都立受検	東京私立	埼玉受験	提出書類	その他
1	水		一次・前期発表				
2	木		一次・前期合格手続メ切				
3	金						
4	土						
5	日						
6	月		二次・後期出願始				
7	火		二次・後期願書取下				
8	水		二次・後期願書再提出				
9	木		二次・後期検査				
10	金						
11	土						
12	日						
13	月						
14	火						
15	水		二次・後期発表				
16	木		二次・後期合格手続メ切				
17	金	卒業式					
18	土						
19	日						
20	月						
21	火	春分の日					
22	水		定時二次出願				
23	木		定時二次願書取下				
24	金		定時二次願書再提出				
25	土						
26	日	春季休業日始					
27	月		定時二次検査				
28	火		定時二次発表				
29	水		定時二次合格手続メ切				
30	木						
31	金						

※予定は変更することがございます。ご了承ください。

7. 出願に必要な書類

- 中学校から各高校へ郵送します。保護者・生徒は何もする必要はありません。
- ◎ 担任からお渡しします。**保**=保護者、**生**=生徒が記入または関係する部分があります。また記入後は、校長印が必要な場合など、担任に再提出になります。開封できないものもあります。
- ☆ 保護者、生徒が用意します。中学校で点検、作成するものもあります。**学**=中学校、**保**=保護者、**生**=生徒が記入または関係する部分があります。開封できないものもあります。

都立高校		私立高校	
推薦選抜	一般選抜	推薦選抜	一般選抜（併願優遇含）
<ul style="list-style-type: none"> ● 推薦書（一般か特別） ● 調査書※1 ◎ 保・生入学願書※2 ◎ 生自己PRカード ※2 ◎ 保受検料振込用紙 ※2 ◎ 生証明写真（中学校で撮影もします。データを購入することもできます。） ※2 	<ul style="list-style-type: none"> ● 調査書 ◎ 保・生入学願書 ※2 ◎ 生自己PRカード（面接実施校）※2 ◎ 保受検料振込用紙 ※2 ◎ 生証明写真 ※2 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 推薦書 ☆ 調査書（都立様式の場合は中学校で用意します。様式は高校によって違います。） ☆ 保・生入学願書 ☆ 保受検料振込用紙 ◎ 生証明写真 ☆ 保合格通知郵送用の封筒と切手（必要な学校のみ） ☆ 生学校説明会参加証明証（必要な学校のみ） 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 調査書（都立様式の場合は中学校で用意します。様式は高校によって違います。） ☆ 保・生入学願書 ☆ 保受検料振込用紙 ◎ 生証明写真 ☆ 保合格通知郵送用の封筒と切手（必要な学校のみ） ☆ 生学校説明会参加証明証（必要な学校のみ） ☆ 保延納願※3（必要な学校のみ）

ここに書かれている物以外にも必要な物があります。募集要項等をよくご確認ください。

※1 調査書・推薦書

調査書には、評定や出欠席のほか「諸活動の記録」を記載します。「諸活動の記録」に載せる検定等は12月1日を目安にお考えください。

※2 入学願書・自己PRカード・受検料振り込み・証明写真

インターネット出願です。家庭で電子申請を行い、手続き完了後ダウンロードした願書に保護者署名の上中学校へ提出してください。自己PRカードや、振込用紙で受検料を支払った場合の領収証書、証明写真などもPDFファイルやJPEGファイルにしてアップロードします。

※3 延納願

他校の合否発表まで、入学金等の支払いを待ってもらう申請書です。特別な用紙があるもの、願書そのものに中学校側が証明押印ものなどの場合があります。また、そういう手続きが不要で、入学金等の支払期限を「都立高校合格発表日15時までか、翌日まで」と指定している場合もあります。

8. 進路希望調査から希望進路決定まで

☆マークがついている書類をお渡しします。期日までにご提出ください。

太枠で囲んだ日は書類の提出期限です。P.6～の日程も併せてご確認ください。

日程	事項	内容	都立高校		私立高校	
			推薦受験	一般受験	推薦受験	一般受験
～10月24日(月)	第2回進路希望調査	<ul style="list-style-type: none"> ■現段階での進路希望先 ■都立・私立推薦受験の希望の有無 ■私立高校の受験校、併願優遇、推薦の希望について 				
10月28日(金)～	第2回三者面談	<ul style="list-style-type: none"> ■学校推薦や併願優遇制度の利用を希望するか ■学校説明会等に参加したか、またその高校についてよく理解できているか ■私立の受験校について、具体性を持たせる(コースや学科まで) 				
～11月22日(火)	第3回進路希望調査	<ul style="list-style-type: none"> ■都立(推薦)・私立の進路希望先決定 ■都立(一般)の受験校について具体性を持たせる 				
12月2日(木)～	第3回三者面談	<ul style="list-style-type: none"> ■12月時点での成績をもとに進路希望先を最終的に決定する。 ■私立高校の単願推薦、併願優遇を希望する場合、高校側の求める基準を満たせば、ほぼ「志望先確定」となる。 ■「推薦」なので、それにふさわしい学校生活であることが前提である。 	<ul style="list-style-type: none"> ■推薦受験を受けるかどうか、受けるとしたらどの高校を受けるか。受験校の変更はまだ可能。 <p>☆推薦書作成願 ☆調査書作成願</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■一般受験の高校を決める。 <p>☆調査書作成願</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■推薦受験を受けるのであれば、受験先も含め、ここで「志望先確定」となる。 ⇒入試相談にかける <p>☆推薦書作成願 ☆調査書作成願</p> <p>■各自で願書を購入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■併願優遇を受けるのであれば、受験先も含め、ここで「志望先確定」となる。 ⇒入試相談にかける <p>☆推薦書作成願 ☆調査書作成願</p> <p>■各自で願書を購入する。</p>
<p>■調査書に書くことができる「諸活動の記録」で記載する検定等は 12月1日(水)を目安にお考えください。</p>						
12月13日(火)	自己PRカード	<ul style="list-style-type: none"> ■都立の推薦受験を希望する生徒のメチです。アップロードする前に必ずチェックを受けてください。一般受験の面接実施校のPRカードメ切りは1月になります。 				
12月16日(金)	調査書 推薦書作成願 調査書作成願	<ul style="list-style-type: none"> ■ここでの「調査書」とは私立高校、私立高等専修学校を希望する人だけです。都立高校の調査書は、東京都から各中学校に来るので、中学校側で準備します。一部の私立高校、私立高等専門学校には、独自形式の調査書になっている学校があります。願書を購入されたとき、封筒の中に調査書が入っていれば、それは独自の形式である可能性がありますので、担任までご提出ください。(私立高校でも「都立用の調査書でも可」の場合があります。その場合は都立用を中学校側で準備します。各校の募集要項をよくお読みください。) ■私立学校の独自形式の調査書は、作成に時間がかかることがあります。お早めにご提出ください。 				

9. 都立受検についての留意事項

① 志願変更(願書の取り下げと再提出)について

- 推薦入試では志望校変更はできません。一般入試ではいくつかの定時制高校以外は、志願変更(取り下げと再提出)ができますが、願書を取り下げた高校の同一のコース及び科(分野)に再提出できない、全日制からチャレンジスクールへの志願変更はできないなどの決まりもあるため、志願変更を考える場合は、必ず各担任まで事前にご相談ください。
- 志願変更の際は、志願変更願を作成(用紙は中学校にあります)し、それを志願を取り下げる高校へ持参して書類を返却してもらうとともに、インターネット出願の手続きをして、さらに新しい志望校へ書類を提出しに行くことになります。準備が必要です。

② 推薦入試について

- 第一志望であることが条件なので、合格したら必ずその高校に入学することが条件となります。
- 都立推薦の発表後、すぐに都立一次・分割前期の出願メ切り日が設定されています。不合格だった場合、大急ぎでインターネット出願の手続きをとる必要があります。準備が必要です。
- 都立推薦を受けるメリットは受検回数が増えることです。しかし、作文や面接の練習が必要になり、その分学科試験の勉強時間が少なくなります。そして、調査書点(内申点)の割合が増え(50%)、高倍率の試験であることを踏まえて受検するか検討してください。

③ 中学校から高校への提出書類について

これから先、「親展」と書かれた封筒をお渡しすることがあります。「親展」とは「宛先人以外は封筒を開いてはいけない」という意味で、他者が開封するとその書類は無効となってしまうので、宛先が「高等学校長殿」などとなっている時にはご注意ください。

④ 書類作成時

- 書類に押印をする場合がありますが、シャチハタ(ゴムスタンプ式)ではなく、朱肉を使った印鑑をご使用ください。書類不備の原因となります。
- フリクションなどの消せるボールペンは使用しないでください。
- 訂正は修正液などを用いず、二重線で訂正し、訂正印を押してください。